

## ベトナムのビール・ソフトドリンク

中川 良一

## ＜ベトナムのビール消費量、世界トップ10入り＞

ベトナムの新聞によれば、ベトナムのビール生産量が年々増加しています。2016年のビール生産量は2015年に比べて9.3%増加し37.8億リットルで、2017年のビール生産量は約40億リットルに達しました。世界のビールの総生産量は約1,955億リットル（2016年）ですが、ベトナムのビール消費量は、世界のトップ10に入るとのことです。

ベトナムビール・ソフトドリンク協会によれば、ベトナム全国のビール生産工場は129社あります。全国の63地方（省）のうち、ビール工場を有するのは43省です。最大のシェアを有するのはサイゴンビール社（略称SABECO 333ビールが有名）で、その次はハイネケン・ベトナム社、ハノイビール社（略称HABECO）、カールスバーグ・ベトナム社の順となっています。



## ＜ベトナム飲料製造業の業績＞

SABECO社の2017年のビール生産量は17.8億リットルで約40%のシェアを有します。2018年の同社のビール生産量は18.4億リットルに拡大される予定です。

また、同社はベトナム商工省傘下の国営企業でしたが、2017年12月にタイのビール会社に対し保有株を53%売却しました。売却額は約50億USドル（約5,700億円）です。複数の日本企業も同社の株式購入を検討していましたが、売却金額が高額であったため、入札に参加しなかったそうです。

## ＜日系企業の進出動向＞

飲料分野では日本から、サッポロ、キリン、サントリーの各社が進出しています。

特にサントリーは、2013年ベトナムペプシコ社を買収し、Suntory PepsiCo 合併会社

を設立し、現在ビール・ソフトドリンク分野優良企業として、ベトナムトップ3にランキングされています。

## ＜清涼飲料水の販売動向＞

マーケティング会社の現地調査結果によると以下のことがわかりました。

- ・ソフトドリンクで最も人気があるのは、コココーラやペプシ等の炭酸飲料で、次いでペットボトルのお茶類
- ・製品形態では350mlの小瓶が最も広く購入され、次いで350ml～1000mlのペットボトル製品
- ・消費者購入ルートは、一般食料品店が多く、次いでスーパーマーケット

## ＜成長が期待される飲料製品分野だが、商品嗜好や価格、流通でのハードルも高い＞

ベトナム商工省によるビール・ソフトドリンク長期生産目標は、以下のように設定されています。

（単位：リットル）

	ビール	ビール以外の酒類	ソフトドリンク
2020年	41億	3.5億	68億
2025年	46億	3.5億	91億
2035年	55億	3.5億	152億

※ビール以外の酒類はワイン・ウォッカ等

しかしながら、日本企業によるビール市場開拓は、ベトナム人のビールに対する嗜好や価格設定、また流通面での特殊性等の難しさもあり、そう簡単なものではありません。

サッポロビールは2011年に自社工場を持つ現地法人を設立し、日本の高品質ビールのベトナム国内での製造販売を開始しました。しかし、現在まで10億円以上の赤字が続いており、2020年の黒字化を目指し、営業体制見直しや、マーケットセグメントの見直しなど、営業戦略の改革が行われているそうです。設立後2016年までは、高価格帯の「サッポロプレミ

アム」を中心に販売されていましたが、2016年から中価格帯「ブルーキャップ」も市場に投入し、順調に売り上げが伸びているそうです。

ベトナム国内での外国ブランドビールは、上位をハイネケン、そしてカールスバーグが占めています。今後、日本ブランドが上位に食い込み、浸透していくことを期待しています